

## 吉野川レキ河原再生試験施工について

最近吉野川では、ヤナギなどの樹木が河原でたくさん生えることにより、河原に大きなマウンドができるなど、河原の姿が大きく変化しています。マウンドができることにより、外来植物であるシナダレスズメガヤが広がりやすくなるなど、もともと河原に生きる生き物への悪影響が心配されています。

徳島河川国道事務所では、シナダレスズメガヤが侵入・拡大しにくい条件を試験的に検証するため、2003年度から2005年度の3ヶ年にわたり試験施工を実施し効果が検証できました。今年度は、フィールドの範囲を広げてヤナギ伐採による試験施工を実施します。

### ①試験施工の目的

ヤナギ類の伐採により

「昔からある吉野川中流域（レキ河原）の河川環境の再生」を目指します。

※別紙 図-1「本試験施工で得られる効果イメージ」参照

### ②場所

西条大橋下流から柿原堰まで（19k/0～24k/2）

※別紙 図-2「伐採範囲」参照

### ③試験施工の方法

西条大橋下流から柿原堰までの砂州においてアカメヤナギやネコヤナギ等を対象に伐採し、出水後の砂州の状況等を調べます。

### ④伐採時期

平成20年12月～平成21年1月中

平成20年12月 8日

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所

### 【問い合わせ先】

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所

副 所 長 森長 稔（内線206）

河川環境課長 田木 康熙（内線361）

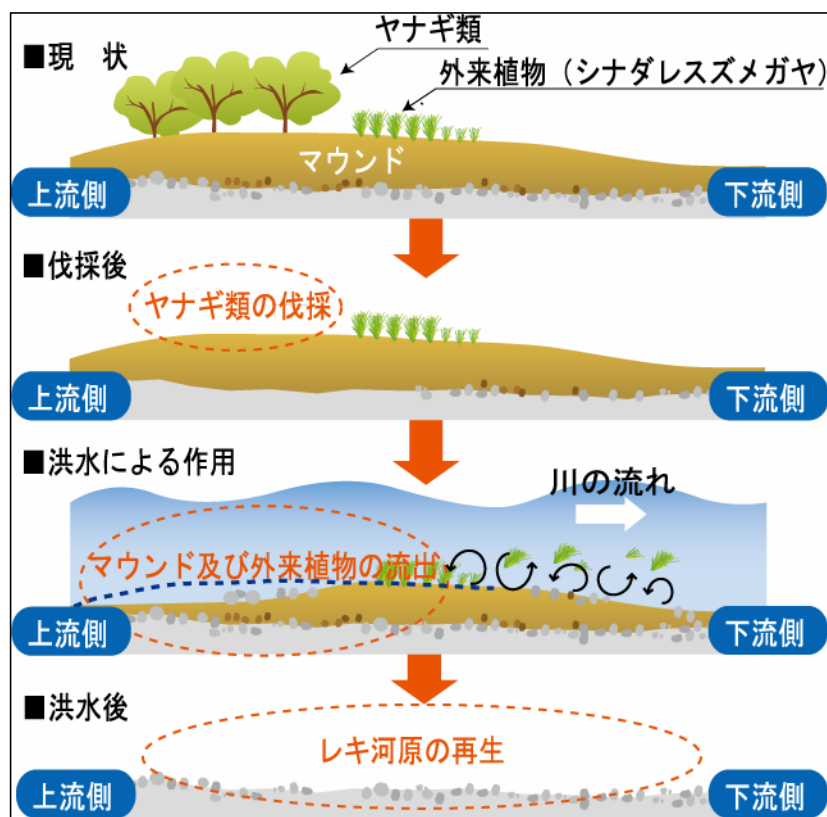
TEL：088-654-9176（直通）



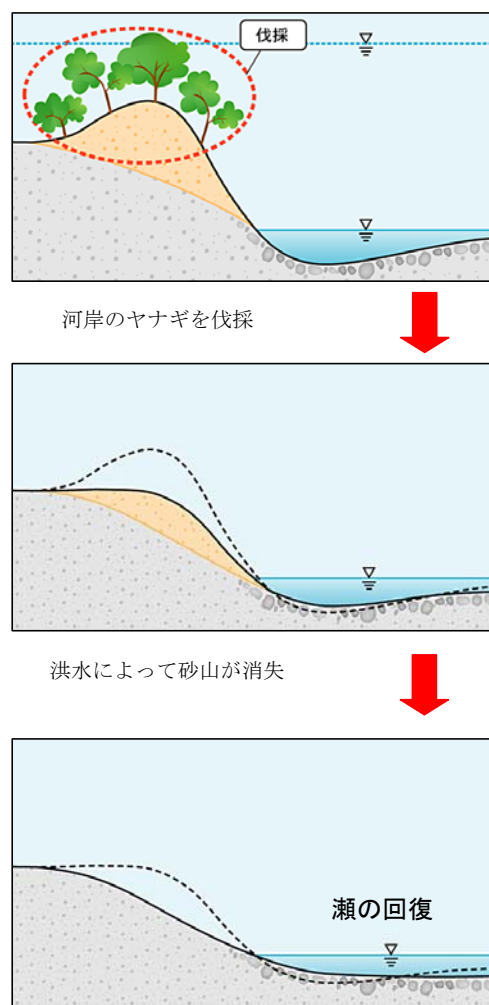
ヤナギが繁茂しシナダレスズメガヤが生えている現状



レキ河原の再生(イメージ) (西条大橋)



ヤナギを伐採し洪水時の水の流れを良くすることによって、外来植物(シナダレスズメガヤ等)の侵入・定着を防ぎ、レキ河原が再生されるイメージ。



河岸の直立化を緩和し、水際の連続性を確保

ヤナギを伐採し洪水時の水の流れを良くすることによって、ヤナギ周辺の砂山が流出し、なだらかな水際環境が再生されるイメージ

図-1 本試験施工で得られる効果イメージ

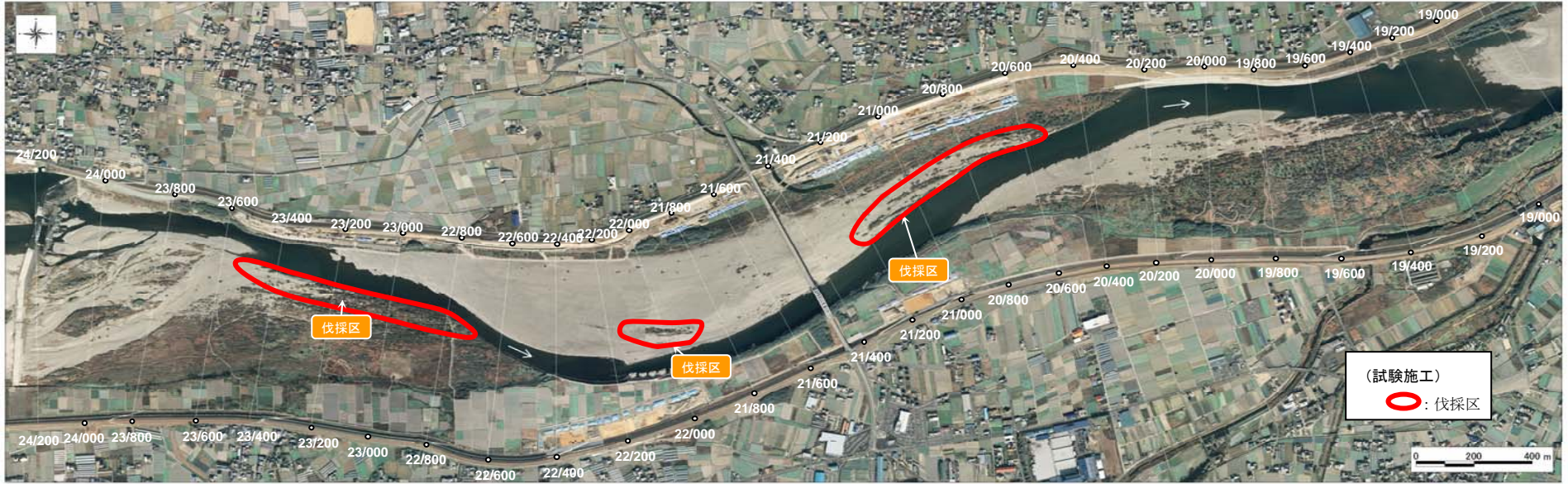


図-2 伐採範囲